

公認会計士「研修出向制度」

体験者リポート

vol. 4

取材・文／南山武志 撮影／大平晋也

新日本有限責任監査法人が昨年スタートさせた、一般事業会社への会計士「研修出向制度」。本制度を活用し、自己成長に励む公認会計士たちのリアル・リポートをお届けする。



株式会社商船三井

新日本有限責任監査法人

行く末を迷っていた時に制度を知り応募

東京外国语大学卒、日本通運での勤務経験ありと、会計士としては異色の経験ですね。

武井 性格的に、新しいことにチャレンジするのが好きなほうなんですね。やりたいことがクルクル変わると言うべきか（笑）。高校時代には、国連の職員になって国際貢献がしたかった。大学で方向転換して、広い意味での国際的な業務ができると思い、日通に就職しました。

会社では港湾にある事務所で、営業の仕事。商船三井から見ると荷主に当たるので、ちょくちょくうかがつたこともあります。

——公認会計士を目指したのは？

武井 就職した当時もけつこう不景気でした。入社1年を過ぎた頃から、このまま営業マンとしてやつていけるのかという不安と、同時に何か新しいものをやってみたいという気持ちがわき上がってきたんですよ。で、ここまで自分のキャリアで足りないものを考えた時、会計とか法律とかのスキルを磨くのもいいかなと、公認会計士を目指すことにしたのです。

——監査法人では、一般企業での勤務経験が役に立ちましたか？

武井 「営業」が染みついていますから、

をめぐる環境変化にそこはかとない不安を感じていましたし、新しい現場で働いてみたいという、積極的な迷いみたいなものがあつて。一般企業への出向制度を知り、自分が目指すのはこれだと、直感的に思いました。

専門知識を生かして働くことに喜び

——商船三井の社員になって、感じることは？

武井 過去の経験、自分の強みを生かしつつ、仕事のパフォーマンスを最も発揮できるとしたら、海運や総合商社だと思っていましたので、この会社に入れたのはラッキーでした。海運業つて、政治、経済から気象状態とか、社会の出来事だとか、世の中のありとあ

らゆる事柄に影響を受けるので、みんなでも視野が広いんですよ。話をしているとエキサイティングだし、とても勉強になります。

——会計士資格を持つ社員として、どのようなスタンスで仕事に臨んでいますか？

武井 当社は総勢40人ほどの経理部のうち、20人が決算グループに属しています。僕は連結決算を担当しています。僕は期待されているのは、やはり会計の専門知識を生かしてみなさんをフォローすること。そのことを常に意識して、仕事に取り組むようにしています。事業部門の人からもけつこう質問をいたくんですよ。そういうものに対しても、できるだけいねいに対応するよう心がけています。

——出向して1年経ましたが、自己評価は？

武井 偉そうなことを言つても、まだ評価できる状況ではないですね。正直、この1年は企業の中身を知るだけで精一杯でした。海運業には特殊なビジネスのやり方がありますし、特有の用語とかもある。会計もほかの業種とはち

出向受け入れ企業の声 今年の7月に2人目を採用。 いい人材なら今後も受け入れたい



株式会社商船三井
経理部長兼 新会計システムプロジェクトグループリーダー
堀口 英夫氏

海運業はセネラリストが求められる職種なので、総合職に関しては、3、4年ごとのジョブローテーションを採用している。本来、ある程度の専門性が求められる経理部門も例外ではなく、コンスタントに人間が入れ替わる。そんな中、特にここ数年、会計制度そのものを含めた企業会計をめぐる環境変化が激しく、不安を感じないとえらばうそになる。専門知識に長けた人間に経理に座ってもらうことは、他の企業に比べても大きな意義がある。出向期間が3年というのも、今述べた当社の事情にフィットするものだ。

武井君には、この1年間、決算業務の核として機能してもらい、大変助かった。それだけではなく、彼の力を借りることで、異動する人が残していく過去の外部監査の要点を理論的、体系的に整理し直すことができた。この制度を利用して、今年の7月に2人目を受け入れたが、いい人材がいれば今後も継続的に受け入れたいと思っています。

Shinobu Takei Profile

1974年12月18日 山梨県甲府市生まれ
1998年3月 東京外国语大学
外国语学部卒業
1998年4月 日本通運株式会社入社
2004年10月 公認会計士第二次試験合格
2004年12月 中央青山監査法人入所
2007年7月 新日本監査法人入所
2010年7月 株式会社商船三井へ出向
家族構成＝独身

自分の強みが生かせる 場所にたどり着き、 視野が大きく広がった

株式会社商船三井 経理部決算グループ 連結決算担当 主任
武井 忍・36歳

監査に行つても、わりと誰とでもすぐ

に打ち解けられるし、同じ目線で話もできる。もう少し「権威」が必要だったのかかもしれませんけど（笑）。

逆に、監査法人に入って間がない人の中には「一般事業会社のことを知らない」と、引け目を感じているような人もいます。一般企業だって新人は何もわからないのが普通なのだから、そのへんはあまり心配する必要はない

んじゃないでしょうか。

——出向制度を知ったのは？

武井 社内の掲示板で見て、すぐに自分から手を上げたんですよ。監査法人に入所して6年ほど経ち、監査業務はひととおりこなせるようになりました。実はそのレベルになつたら、以前からちょうどよく募集があった官庁への出向に応募しようかとも思っていました。これも日通にいた時と同じで、会計士

よつと違うので、それらを頭に入れるだけでも大変でした。

「みなさんがフォローする」と言いましたが、一つひとつ質問に答えていくうちに、だんだん会社の全体像や、やりたいことが見えてくるという感じがします。いずれにせよ、これからもまだまだ勉強だと思っています。

——今後の目標と、あとに続く人たちへのメッセージをお願いします。

武井 会計制度の問題なども見据えながら、残る出向期間、商船三井の経理として大いに貢献したいですね。そのことが、会計士としてのスキルアップにもつながると確信しています。

僕から見ると、新卒で監査法人に入つて、そこから事業会社に出向というのは、けつこう勇気がいるのかなとい

う気もします（笑）。ただ、かけがえのない経験を可能にする制度であることは間違ひありません。会計士である以上、監査の能力をしっかりと身につけるのは当然。そのうえでどうしようか迷っているような人には、ぜひひとと挑戦してほしいと思います。

戻してほしいと思います。

